2022年度の業績

事業の概況について

エリア内の少子高齢化等による人口や企業数の減少、金融緩和の顕在化及び新型コロナウイルス感染による経済停滞の長期化に加え極端な物価高など厳しい環境下ではありましたが、２年目となる“おおかわしんきん「支援力の強化と変革への挑戦」３か年計画”の長期経営計画に基づき、各種施策にそれぞれが注力し計画を遂行することで収益確保に努めました。また、地域金融機関として地元企業に対し、地域の経済が停滞しないよう伴走型の経営支援に努め、当金庫が従来から取組んできた「地域活性化のための地域貢献事業」により、企業の技術力を活かした「事業再構築補助金」等の申請支援や地域企業の悩みや課題解決に向けた専門家派遣等の経営改善を支援していくことで営業基盤の強化に努めました。

長期経営計画のスローガンである「Ｓ（サポート）、Ｃ（コミュニティ）、Ｃ（チャレンジ）～常にお客さま・地域を支え、地域の中で一番の地域金融機関として、新しい未来へ繋がるために挑戦する～」と行動方針である、「スピード」・「スマイル」・「プラスワン」を更に定着させ、徹底した企業支援、地域支援等によるおもてなしの信用金庫を目指すことをスローガンにお客様の満足度向上に取り組みました。

2022年度決算概要

①主要損益概況

収益面においては、貸出金残高が資金需要の低下により平残ベースで２，１４４百万円の減少となったことで貸出金利息は２７百万円の減少となった反面、預け金利息は２７百万円の増加、有価証券利息配当金も４５百万円の増加となったことで、資金運用収益は４７百万円の増収となりました。また、信用コストや人件費の増加もありましたが、物件費について２６百万円の削減を図れたことで、コア業務純益は対前期比３８百万円増益の３３８百万円となり、当期純利益は対前期比４６百万円増益の２１１百万円となりました。

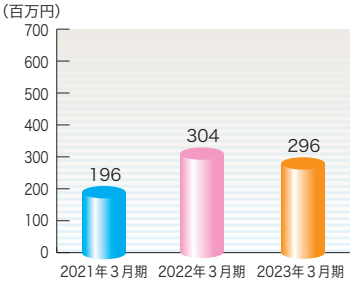
②預貸金の状況

２０２３年３月期決算において、資産の主要勘定である貸出金は、新型コロナウイルス感染症対策資金等の一巡による資金需要の低下が影響したことで、平残ベースで対前期比２，１４４百万円減少の６３，５５２百万円となりました。一方、負債の主要勘定である預金積金は、預金開拓や年金受取口座の地道な推進等により、平残ベースで６９０百万円増加の１６２，０９９百万円となり、総資産においても、平残ベースで８０５百万円増加の１７５，６９９百万円となりました。

■ 収益の推移

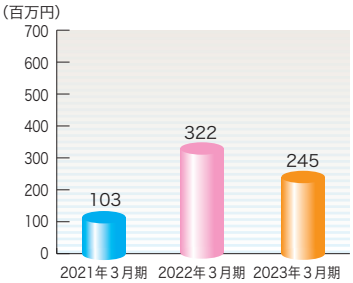
業務純益

一般企業の営業利益に相当するもので、本来の業務によって得られた利益のことです。



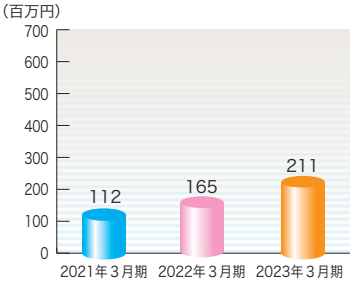
経常利益

業務純益に株式の売却損益・償却および不良債権処理に要した費用等を加減したものです。

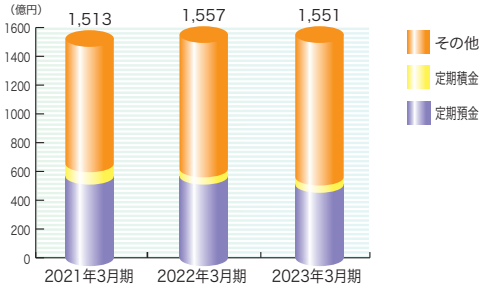


当期純利益

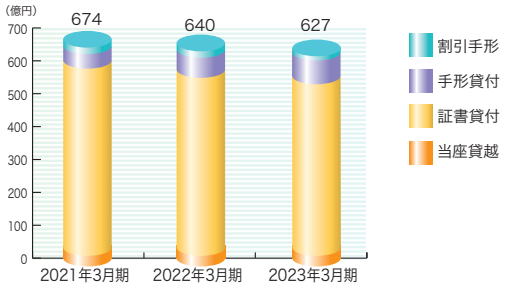
経常利益に特別損益および税金等を加減した最終的な利益です。



■ 預金残高の推移



■ 貸出金残高の推移

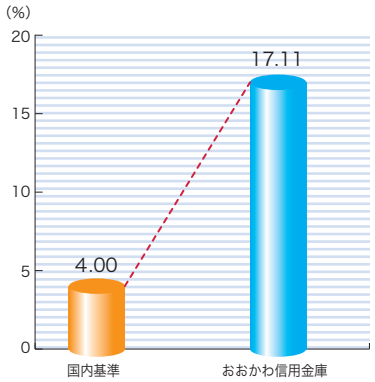


自己資本比率について

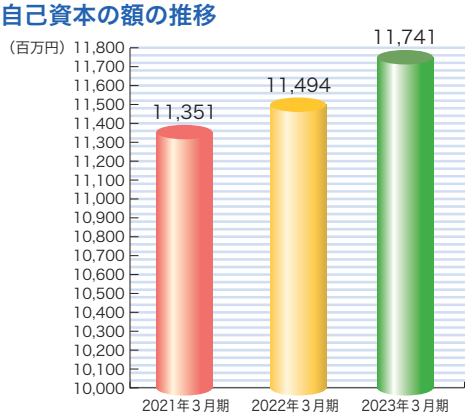
自己資本比率は、金融機関の健全性を示す重要な指標で、リスクアセット（総資産のうち、万が一の場合に貸倒れの可能性がある資産）に対して、自己資本（出資金・積立金等）がどれくらいあるかを示す指標のことで、この比率が高いほど経営の健全性が高いといえます。当金庫のように国内にのみ支店がある金融機関は、自己資本比率４％以上を維持することが求められています。

当金庫の自己資本比率は、今期も内部留保の積上げを行い、自己資本の充実に努めた結果17.11％となり、高い水準を維持しております。

■ 自己資本比率



■ 自己資本の額の推移



$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{11,741百万円（自己資本の額）}}{\text{65,323百万円（信用リスク）＋3,278百万円（オペレーショナルリスク）}} = 17.11\%$$

【自己資本総額】出資・法定準備金・諸積立金の合計
【信用リスク】取引先の倒産や財務状況の悪化などにより、損失が発生する可能性のある資産の総額
【オペレーショナルリスク】金庫の業務上において不適切な処理等で生じる事象により、損失が発生する可能性のある資産の総額

・方針・手続及び評価方法の概要等は、66頁をご参照下さい。
・上記自己資本比率算出の基礎計数は、58～59頁をご参照下さい。

当金庫が対処すべき課題

今後も地域の経済状況は、原油を含む資源や物価高騰の影響を受け、厳しい経営環境が続くことが予想されます。また、少子高齢化等の人口構造の変化を背景とした取引先企業や人口の減少が続くなかで、当金庫の状況は、他の金融機関との競争激化等により更に厳しい収益環境になっていくと予想されます。

このような環境の下、これまでの行動指針「スピード」・「スマイル」・「プラスワン」のＳＳＰに加え、「サポート」「コミュニティ」「チャレンジ」のＳＣＣによる「常にお客さま・地域を支え」「地域の中で一番の地域金融機関として」「新しい未来へ繋がるために挑戦する」信用金庫を目指し、厳しい環境を皆さまとともに乗り越えられますよう、また、経営資源の再配分・業界ネットワークを利用するとともに、将来の人口動態等を見据え、2023年2月20日酒見支店を本店営業部内へ店舗内店舗方式により移転、2023年5月8日からの「ゆめ咲支店」の出店等、店舗配置の見直しのほか、経営資源のより効率的な活用を実施することで、さらに地域社会に期待され、信頼される金庫を目指してまいります。